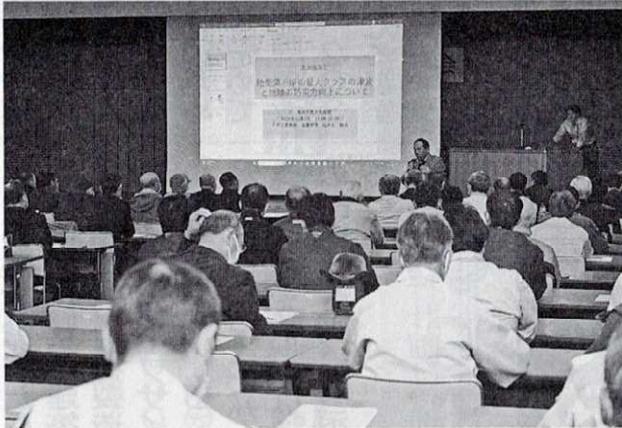


津波避難 意識新たに

陸奥湾想定し青森で講演
川を愛する会 川を愛する会

陸奥湾で発生する津波のリスクを正しく知り、迅速な避難につなげるための講演会が2日、青森市のリンクステーションホール青森で開かれた。行政関係者や建設関連業者、一般市民ら約110



110人が防災意識を高めた津波講演会

人が参加。災害を「自分ごと」と捉え、命を守るために普段から備える大切さを再確認した。主催は県およびあおむりの川を愛する会（会長・佐々木幹夫八戸工業大学名誉教授）で、青森県測

量設計コンサルタント協会（佐藤和昭会長）が共催、日本技術士会青森県支部が後援。3年ぶり7回目、青森市での開催は今回が初めて。

講演会では、佐々木名誉教授が講師となり、これまでの調査や検討成果に基づく地震と津波のメカニズムについて解説。

太平洋側で海溝型地震が発生した場合、96分後に最大5・4層の大津波が青森市を襲う可能性がある」と述べ「避難場所にとどり着く経路の確認と訓練を日頃から心掛けてほしい」と呼びかけた。

また県河川砂防課の畑山賢司主幹が、発生頻度の高い「L1津波」を想定

した海岸堤防の整備を進める一方、最大クラスの「L2津波」には避難を軸にハード・ソフト両面で総合的な対策をとる「多重防御」の考え方について説明。津波が青森市と野辺地町を飲み込む様子をアニメーションとCG動画で紹介した。

内閣府防災で日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震対策などに携わった古市秀徳県土整備部長は終了後の取材に「危険な場所からすぐ逃げるのが大事」と強調し、災害協定を結ぶ地域の建設業者に「いざというときは迅速な対応をお願いしたい」と協力を求めた。

（山口聡）